

布留遺跡内(樋ノ下・ドウドウ)地区大溝出土子持勾玉(5～6世紀)

布留遺跡は奈良盆地東部に位置する、旧石器時代から現代まで連続と続く複合遺跡です。

1938年には、末永雅雄博士等によって、初めて布留遺跡の調査が行われましたが、古墳時代前期を代表する土師器の型式名である「布留式土器」の名称は、このとき出土した土器につけられたものです。今回、これらの資料を展示することにより、あらためて、本調査の学史的な重要性とその意味を考えたいと思います。

この布留遺跡の東側には石上神宮が鎮座します。日本書紀によれば、古くから物部氏が石上神宮を祭ってきたとされています。この石上神宮は神剣フツノミタマを祭神とし、大量の武器がおさめられていて、王権の武器庫としての役割も担っていました。物部氏は祭祀を司るとともに、軍事氏族としての一面も有していたことがわかります。

布留遺跡は、この物部氏が本拠を置いた集落遺跡で、古墳時代中期の5世紀には、布留川南岸地域に豪族の居館や大型倉庫が建てられ、また、『日本書紀』履中天皇条の「石上溝」と推定される大溝が掘削されています。

これまでの調査では祭りや軍事との関わりを示す良好な資料が出土しています。

特に、布留(堂垣内)地区では、西日本では類例の少ない、石敷に多数の土器や滑石製模造品かっせきせいもぞうひんを伴った祭りの場や、祭場を画するために使用されたと見られる特異な円筒埴輪群が発見されています。また、1955年には祭りにかかわる多量の高杯群が投棄された所が調査されましたが、この一群は現場でそのまま切り取り、現在当館で保管しています。今回の展覧会ではこうした資料を展示して、当時の祭りの状況をご覧頂こうと思います。

このほか、玉工房や武器工房との関連を示す遺物や渡来人との関わりを示す遺物なども多数出土しています。

本展覧会では布留遺跡より出土した数々の資料から物部氏の実態に迫りたいと思います。

【会期】 4月4日(水)～6月11日(月)  
【会場】 3階企画展示室

「物部氏の拠点集落を掘る」

## 大布留遺跡展

第65回 企画展



布留遺跡内(アゼクラ)地区の居館跡(5世紀)



布留遺跡三島(里中)地区出土木製刀剣把装具(5～6世紀)

### トーク・サンコーカン

「物部氏の拠点集落、布留遺跡を考える」

日時：6月9日(土)午後1時30分～

講師：日野 宏 学芸員 会場：研修室

### 列品解説

4月26日(木)・5月25日(金)午後1時30分～

会場：3階企画展示室

#### 講演会 <1> 「物部氏と石上神宮

—布留遺跡から見た石上神宮成立の背景—

日時：4月21日(土) 午後1時30分～

講師：和田 萃氏(京都教育大学名誉教授・奈良県立橿原考古学研究所特別指導研究員)

会場：研修室 定員：150名(当日先着順)

#### 講演会 <2> 「ヤマト政権の生産体制を探る

—渡来系工人と玉作集団からみた布留遺跡—

日時：5月19日(土) 午後1時30分～

講師：関川 尚功氏(奈良県立橿原考古学研究所共同研究員)

会場：研修室 定員：150名(当日先着順)

## 第66回企画展 鉄道絵葉書の世界

会期：7月4日(水)～8月12日(日)

現代ではインターネットが普及し、電子メールや各種コミュニケーションツールの発達により、早くて便利な情報のやりとりが可能となりましたが、手紙や葉書にはそれらには代えられない質感があります。そして美しい風景やモノを印刷した絵葉書には、今なお格別の趣があり、美的所有欲を満たすものも少なくありません。



電車絵葉書(明治43年真面有馬電気鉄道)

近代日本の郵便制度は、鉄道と同様に明治初めにイギリスより導入され、それまでの飛脚に取って代わりました。その後、明治30年代に絵葉書の制作・使用が認められ、同35年の万国郵便連合加盟25年記念絵葉書や日露戦争の記念絵葉書発行を契機として、絵葉書を収集対象とするコレクターも増え、一大ブームが起きました。

今回展示する資料は、主に鉄道会社等が制作したものや交通にまつわる図柄を扱った明治から昭和初期の絵葉書で、沿線各地の名所旧蹟や年中行事、路線開業の記念等様々な題材がモノクロや手彩色の写真・イラストで美しく印刷されています。アール・ヌーボー風のデザインや、エンボス加工等興味深い表現技法が駆使され、特に手彩色の絵葉書は、現在ではちょっと考えられないことですが、モノクロ写真に手作業で着色したもので、一枚一枚微妙に違いがあり、何ともいえない手作りの風合いを感じることができます。



富士山絵葉書(明治40～大正6年 鉄道院)

小さな絵葉書に詰め込まれた美しい世界に浸り、懐かしい鉄道車輛や全国各地の名所旧蹟、観光地をめぐる旅に出てみてはいかがでしょうか。(乾)

関連イベント 列品解説 7月26日(木)午後1時30分～  
トーク・サンコーカン 7月21日(土)午後1時30分～  
※そのほか鉄道模型走行実演や開催記念券の配布を予定しています。

## イスラエルにおける発掘調査(九)

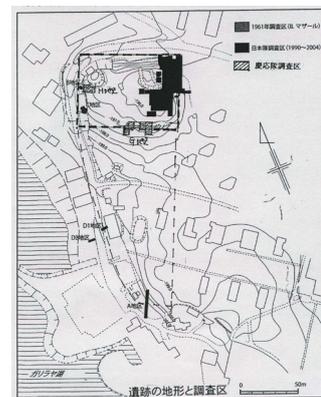
### [エン・ゲヴ遺跡②]

この遺跡は私達日本隊が初めて発掘調査を行ったわけではなく、実は2度目でした。1961年にイスラエル人考古学者のグループが発掘を実施し、遺跡のおおよその形と年代を確かめていました。遺跡の外郭は城壁で守られており、年代は紀元前10世紀頃から8世紀頃ということもわかっていました。その後、永らく発掘調査は行われていませんでしたが、1998年より私達がイスラエルで調査協力関係を持っていたテル・アヴィヴ大学が、ガリラヤ湖東岸地域の考古学的調査(ゲシュールプロジェクト)を開始したので、その一環として参加することにしました。

調査は1990年から開始しました。調査組織は「日本聖書考古学発掘調査団」といい、日本人が主体的に調査を行うのですが、調査許可はテル・アヴィヴ大学が取得しているため、大学から調査指導の形でイスラエル人1人と調査マネージャー1人が派遣されてきました。その後、8次調査まで行い、その都度日本から30～40人ほど参加しました。

遺跡は南北約250m、幅約100mと細長い形状です。高さは北端が最も高く、約4mです。高い北側は一辺70mほどで方形になっています。また、キブツ(集団農業共同体)の建物に接しているため、調査区を、空いていた北端に集中しました。

その結果、遺跡北端はアクロポリスであり、層位は大きく鉄器時代とヘレニズム時代、ローマ次代に分かれることがわかりました。鉄器時代には城壁に囲まれた内側に、列柱式建物があったこと、ヘレニズム時代からローマ時代には小規模な民家建物があったことなどもわかりました。それぞれの遺構についての説明は次回に報告します。(山内)



エン・ゲヴ遺跡の地形

NEW!

## 松田顧問の考古余話 ②朱にこめられた意味

崇神天皇陵に比定されている天理市行燈山古墳<sup>あんどんやま</sup>にほど近い伊射奈岐神社境内には全長 103m の前方後円墳<sup>いざなぎ</sup>天神山古墳<sup>てんじんやま</sup>があります。現在古墳は東側が国道によって失われていますが、昭和 35 年の発掘調査では竪穴式石室の木棺内に方格規矩四神鏡など舶載鏡を含む 20 面の銅鏡とともに、41kg もの大量の水銀朱が置かれていました。古墳出土としては本邦最大の量で、鮮やかな色彩を放つ貴重な朱の保有が権力を誇示するかのようです。

日本列島ではすでに先史時代に辰砂精錬技術が開発され、朱を特定の器物や道具などに塗布し、生命の再生などを願う呪術的な意味をこめて扱われたようです。さて近年遺跡出土の朱に含有される微量元素やイオウ成分の化学分析によって産出鉱山を特定する研究が進められています。今後方法論の確立が望まれますが、それによれば天神山古墳の朱は三重県丹生もしくは奈良県宇陀産の水銀の可能性がある一方、山陰地方の弥生時代末期の王墓の一部では中国産の朱が使われているという。ところで「三国志」魏志倭人条には倭の山に丹があると記されていますが、魏から卑弥呼に下賜されたものの中にも眞珠(朱の意)と鉛丹五十斤があります。そこには自国産の朱とは異なり、中国で信じられた不老長生の特別の仙薬を授かるという意味があったのかも知れません。

### 資料紹介

#### 三角縁盤龍鏡

古墳時代前期を代表する遺物に青銅製の鏡があります。中でも卑弥呼が中国の魏から下賜された鏡ではないかとされる「三角縁神獸鏡」は有名です。しかし、この鏡は謎だらけで、中国で作られた鏡だというのに、中国からは、1枚も見つかっていません。また、古墳から出土した三角縁神獸鏡はすでに 500 枚近くあり、下賜された鏡の数をはるかに超えています。こうした状況から、この鏡はすべて国内で作られたものとする説もあります。



奈良市大和田町富雄丸山古墳  
4世紀 径24.6cm  
(重要美術品)

掲出の鏡は三角縁ですが、鏡背の文様は鈕(中央のつまみ)の周りに4頭の靈獸を配し、神仙像がないので「盤龍鏡」と呼びます。靈獸は1本の長い角を生やし、右下の1頭は正面を向き、他は横向きです。左上の一角獸は、体に格子目状の文様を施し、凶像の横に「龍」の字が鋳出されています。他の3頭は鱗のような円文が施され、龍と虎を描き分けているようです。外側の文様帯には、獸面、魚、鳥、徒歩の戦士、馬車、騎馬人物などが写實的に表現されています。この鏡と同じ文様で同じ大きさの同範鏡(同じ鋳型で作った鏡)がほかに4枚あります。(高野)

### 資料紹介

#### 神像図「竈神」

数ある中国民間版画の中で、さまざまな神が描かれ、主に礼拝の対象とされるものを「神像図」と呼びます。本品は「竈神」という神像図です。



中国華北地方 20世紀前半版の天地 35.0cm

竈神は、司命之神・竈君・東厨司命などと表記されることもあります。一般的には各家庭の厨房に祀られます。竈神はその家に住む人の善行・悪行を調べ、旧暦十二月二十三日(または二十四日)に天へ昇り、天上の神に彼らの一年間の行動を報告するとされています。それによって翌年の禍福が決まるので、できるだけ良い報告をしてもらうため、昇天する日には供物をささげて竈神を祀ります(これを祭竈といえます)。祭竈では祈りの最後に神像図を燃やして天に送り、大晦日には新しい版画を用意して竈神を迎えます。

本品には、竈神の上部に、民国二十五年(1936年)の月(旧暦)の大小と、二十四節気が記された略暦が刷り入れられています。二十四節気は農作業の目安になります。(中尾)

### 周辺の見所

#### 多神社

近鉄橿原線笠縫駅から西へ徒歩 20 分のところに多氏にゆかりの「多神社」があります。地名で神社の名前にもなっている「多」は、太安万侶らをはじめとする古代氏族「多氏」の根拠地と考えられている場所で、神社は奈良県の指定文化財になっています。境内には本殿と多くの末社があります。本殿は一間社が東西に四つ並ぶ 18 世紀中頃の春日造りの古い様式を残す建物です。東の第一殿には神武天皇を、第二殿に主祭神である神八井耳命<sup>かむやいみみのみこと</sup>を祭り、この神八井耳命が「多氏」の祖といわれています。また境内に多く見られる末社の中には小杜神社<sup>こもり</sup>と呼ばれる若宮があり、ここに太安万侶が祭られています。



多神社 磯城郡田原本町

日本最古の歴史書「古事記」を編さんして、今年で 1300 年。古事記の編者として知られる太安万侶を訪ね、悠久の昔にひたるのもいいかもしれません。(太田)

## 公開講演会トーク・サンコーカン

◇いずれも午後1時30分開講（申込不要）

◇受講料：無料（ただし入館料が必要）

### 第215回『物部氏の拠点集落、布留遺跡を考える』

6月9日(土) 講師/日野 宏 学芸員

日本書紀には、古くから物部氏が石上神宮を祭ってきたことが語られています。この物部氏が拠点を置いた布留遺跡からは祭りや軍事との関わりを示す良好な資料が出土しています。これまでの調査成果から古代豪族の実態に迫りたいと思います。

### 第216回『絵葉書に見る鉄道・観光のイメージ』

7月21日(土) 講師/乾 誠二 学芸員

鉄道会社は沿線各地の名所旧蹟や年中行事、路線開業の記念等、様々な絵葉書を制作配布しました。今回は主に昭和初期の絵葉書に描かれたイラストや写真から観光地や鉄道車輛を眺めるとともに、イメージ戦略について考えてみます。

### 第217回『斉明天皇の墓』

9月29日(土) 講師/山内 紀嗣 学芸員

斉明天皇は女帝で飛鳥に葬られました。牽牛子塚古墳がその墓であることは皆が認めるところです。その側で見つかった越塚御門古墳は孫の太田皇女の墓です。こうした経緯を振り返り、飛鳥時代の墳墓を眺めてみましょう。

### 第65回企画展 大布留遺跡展 関連イベント

「古代豪族、物部氏の里を行く

—布留遺跡と杣之内古墳群めぐり—

日 時：4月27日(金) 午後1時00分～4時30分

集合場所：天理参考館

(要事前申込・保険代・資料代100円)

募集人員：50名

### おしらせ

#### 5月18日は国際博物館の日

この日を中心に世界中の博物館が様々な記念行事を行います。この機会に、多くの方に来館いただき、博物館を楽しんでいただければと思います。

当館では、5月18日(金)にご来館された方に、記念品を配布する予定です。

なお、記念品が無くなり次第

終了とさせていただきます。



### トーク・サンコーカン今後の日程

第218回 『貴公子とスポーツ —蹴鞠—』	11月24日(土)	講師/幡鎌 真理	学芸員
第219回 『古代アメリカ文明とヘビ』	1月19日(土)	講師/梅谷 昭範	学芸員
第220回 『物部氏の巨大石室 塚穴山古墳』	2月23日(土)	講師/藤原 郁代	学芸員
第221回 『台湾先住民の現在』	3月16日(土)	講師/早坂 文吉	学芸員

世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学 附属

# 天理参考館

TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM

住所：〒632-8540 奈良県天理市守目堂町 250

TEL：0743-63-8414 FAX：0743-63-7721

URL：http://www.sankokan.jp/

開館時間：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）

入館料：大人400円/団体(20名以上)300円

小・中学生200円（学校単位の団体は無料・事前申し込みが必要）

携帯電話のサイトから  
情報をご覧頂けます

